

倉敷市立幼稚園教育研究協議会（第3回）会議録

平成19年4月17日(火)開催 教育委員室

1 教育次長あいさつ

2 協議

事務局より資料に基づいて説明

質疑・応答

- | | |
|-----|--|
| 委員 | 3歳児保育で定員を超えた場合の抽選はどのようにしているのか。一人の幼児が複数園に申し込むことができるのか。 |
| 事務局 | 抽選はくじを引くようにしている。複数園に申し込むことはできない。 |
| 委員 | 3歳児の定員が20名に絞られている理由、3歳児保育実施園を決める理由は？ |
| 事務局 | 地域性と20名の定員が埋まるであろう地域で実施している。 |
| 委員 | 抽選でもれた107名のその後の把握はどのようにしているのか。 |
| 事務局 | 把握はできていない。各園で未就園児への幼稚園開放等で遊びに来れるようにしている。 |
| 委員 | 3歳児保育の応募の時期・抽選の時期はいつか。また、抽選に漏れた場合、私立幼・保育園の応募に間に合うのか。 |
| 事務局 | 応募の時期は4、5歳児と同じ。抽選は12月26日前後であり、その日に結果が分かる。 |
| 委員 | 私立幼、保育園の応募には間に合わない。 |
| 委員 | 私立幼の3歳児の幼児数、応募状況が資料にはないが、大事だと思う。 |
| 委員 | 真備地区は定員25名だが、どうしてか。 |
| 事務局 | 合併前からそのようになっている。 |
| 委員 | 倉敷北地区は園児数が多いので、空き教室がない。保育室等もろもろの条件が整わないと3歳児保育はできない。北地区は空き教室がないので3歳児保育ができないのではないかと。 |

意見交換

- | | |
|-----|---|
| 会長 | 資料のデータを基に、それぞれの幼稚園の1クラスの人数、適正な規模はどうあればよいかについて議論をお願いしたい。 |
| 委員 | サポーター等のルールはどうか。 |
| 事務局 | 8クラス以上の園にはフリーの主任を配置している。4歳児については31名以上の学級に4歳児サポーターを10月第2週まで配置している。 |

- 会長 適正規模については子ども側，教師側から様々な要素を入れながらの意見をいただけるとありがたい。
- 委員 学級規模については，一定数以上ないと保育はやりにくい。かといって多すぎるのも困る。印象調査では35名は多すぎる，25名くらいがよいとのことだった。30名を割るくらいがよいとのことだが，これは先生方の実感による。
昔の子どもとは違うので，35，40名ではどんな力のある先生でもむずかしい。特に親への指導を考えるととてもむずかしい。20くらいでもよいのではないかと思う。
- 会長 経緯の中から意見をいただけるとありがたいのだが。
- 委員 昔は40名を担任一人でみていた。最近は親のしつけの在り方に問題があり，基本的な生活習慣の面ができていない。友達と遊ぶ機会も減ってきており，子どもの育ちも昔とは違ってきている。障害のある幼児も受け入れている。このことから4歳は25名，5歳は30名くらいがよいと思う。このくらいであると集団としての力を意欲的に発揮することができる。人数が少なすぎると集団としての育ち合いや意欲の盛り上がりには欠ける。
4歳の35名は厳しい状態である。岡山市・玉野市は以前から30名になっている。
- 委員 今の子どもを見ていると，35名を一人の先生が受け持つのは無理である。どこまで低くすればよいか，きちっとした線引きはむずかしいが今の35は多い。また，35では1クラス，36になると2クラスになるが，一人二人のために1クラスになったり，2クラスになったりすることについては緩和してほしい。3歳に関しては20が適切であるかどうか，現場の先生にたずねるとよい。親としては子どもをきめ細かくみてほしいが，少なすぎるのも困る。集団生活ができる最低のラインは必要である。
- 委員 3歳は20くらいでないとむずかしい。慣れるまでは半数に分け交互に登園するといったやり方がよい。3歳児保育を実施すると，3年間の中でゆったりと幼稚園生活を送らせることができる。特に4歳の育ちが違う。3年保育は子ども発達の上ではとてもよいことである。
3歳児が集団生活をする上では，18でもよいのではないか。
- 委員 保育園は3歳20名，4，5歳は30名にしている。保育園は3歳になるまでに育て上げているが，幼稚園の3歳は自立できていない子がほとんどである。支援員をつけるなど複数の目でみる体制をとるとよいのではないか。
- 委員 初めての集団生活であると，3歳20名は無理である。できないにとはならないと思うが，育ち的なものが違ってくる。倉敷市としてどこに視点を置くのがよいかという問題だと思う。
- 委員 倉敷市はかつて国全体が40名の時，早くから35名にするなど先進地であった。他の所がどんどん30になっていっているのに，倉敷は国基準のままである。
- 会長 子どもが変わってきている。3歳と4，5歳とは別のスケールをもち，適正な規模を考えていくのがいいと思う。また，1つの学年のクラス数がどうかという規模についても，MAXがどうなのか，下限はどこまでがよいのかといったことについても，様々なご意見をいただきたい。
学年に2学級以上がいいと思うが，地域によってはむずかしい。今のままの配置でよいのかといった問題も出てくる。配置，統廃合といった問題についてもいろいろのご意見をいただきたい。
小学校区の中にいくつの保育園・幼稚園があり，どう重なり合うのかといったことから考えていくことも必要である。
- 委員 幼稚園では毎年クラス替えをする必要はないと思うのだが・・・。
- 委員 各小学校区にどれくらい保育園・幼稚園があり，どういう形で小学校へ入学しているのかといったこと

	も考える必要がある。そのデータをもってこないと適正規模、適正配置は考えにくい。小学校のように毎学年クラス替えをする必要はないと思う。
委員	3歳児保育をしている園はわずかだが、最終的にすべての公立幼稚園での3歳児保育ありきで話をするのか、現状の中で考えていくのか。 ライフスタイルが変わってきており、親は、早く幼稚園に入りたい。3歳児保育を早く進めてほしいという強い要望がある。3歳児保育がないために公立幼への就園が低下している。 3歳児保育への強いニーズがあるので、全園で3歳児保育を始め、その上に立っての適正配置を考えていくとよいのではないか。
会長	競合することもあるので、全園での実施はむずかしいと思うが、3歳児保育への要望が大きいことや、抽選から漏れる人が多いという現実を踏まえて、行政としてどうフォローしていくのかといったことも大きな課題である。
委員	希望するすべての3歳から5歳の幼児が入園できるようにするという国の方針に合っていない。私立へ行きたくてもお金が高くて、行けない保護者もいる。抽選から漏れる人がこんなに多いのでは3歳児保育が十分になされていないということである。
委員	1歳半・3歳児健診で、以前に比べると気になる幼児が多い。母子だけで家の中だけで生活している子もいる。集団の中に入りたくても受け入れが少ないと入れない。
委員	保育園では、0歳から1,2歳は複数担任制にしている。3歳になると20名に1人の担任である。保育園の場合は3歳20名だが、クラスが多いので先生同士で見合うこともできる。 発達障害の子を受け入れている場合は、1対1のかかわりが必要である。4歳になると周りの友達の力を借りて育ち合う。3歳は集団生活が必要なのか。3歳は母親の愛情をたっぷり受け、大事にされて心の育ちが促されるので、保護者と一緒にゆっくり生活するのが望ましい。一人一人の子どもがどんな思いで先生や集団を信頼し受け止めていくのかといったことを考えたい。
会長	適正規模・配置をどうするのか、現実の問題をとらえてどうクリアしていくのか。 適正規模を考えながら配置換えを考えていかなければいけない。1中学校区にはいくつかの園をというように考えていかなければならないと思う。
委員	平成12年の答申では集団規模を4,5歳児合わせて30名以上であることが望ましいとされているが、人数のバランスとして、4,5歳の人数にあまりにもへだたりがあることは望ましくない。
委員	小学校区に公立幼稚園がなくなる地域もでてくると思うが、私立幼稚園があれば公立幼稚園はいらないのかという問題もある。幼児教育の公的保障をどうしていくか。公立は地域にとっては大きな財産である。ただなくしてしまうということにはいかなない。そのあたりの議論がされていないと思う。
委員	現実に統廃合される園はどこか。
事務局	水島幼稚園・南浦幼稚園を20年度末に計画している。連島北幼、下津井幼、琴浦北幼は22年度末までに統廃合の予定である。
委員	琴浦北幼の統廃合の実施までに10年の期間をかけたのには意味がある。数の問題だけでなく、地域性等いろいろな視点で考えられた。
会長	学校区を大きくする中で、幼稚園を確保するためには、車で送迎できるようにする等様々なことを考えて統廃合をしていかなないと、幼稚園の規模が小さくなり、教育効果が出てこない。 あまりにも規模が小さいと先生自身がしんどい思いをする。いろいろなことを連動させながら考えてい

く必要がある

- 委員 休園になった園の施設はどのように利用しているのか。
- 事務局 有効に利用するように考えている。
- 会長 預かり保育についても考えていく必要がある。
- 委員 保育園は第3子の保育料は減免になる。幼稚園の場合はどのような減免制度があるのか。保育料が安いと保育園に流れでいく。第3子、第4子で幼稚園を希望する保護者には何らかの配慮を考えてもらいたい。
- 委員 3歳児保育を拡大すると入園する子も増えるのではないのか。
- 委員 公立で3歳児保育を増やすと私立への影響が大きい。共存していくことがよいのではないのか。
- 委員 私立へ行く人は初めから私立へ行こうと決めている。公立を考えている人は4歳まで待っても公立へ行っているので、あまり影響はないのではないかと思う。
- 会長 3歳児保育、適正配置、預かり保育の3つのことを様々に議論していく中で専門委員会の方に意見をもらいたい。

3 学校教育部長あいさつ

平成19年 5月 11日

倉敷市立幼稚園教育研究協議会

会長 森 熊 男(会長印)